

A：濃縮授業・プログラミング的思考

1 はじめに

2020年からのコロナ禍、学校では約3か月間の臨時休校がありました。先行きが予測できず、「いつ授業ができなくなるかわからない」状況下、学校再開後、児童の学習の遅れをどう取り戻していくか、石原小職員全員で模索しました。

今までの授業スタイルを改め、短い時間で、いかに効率的に児童に学力を付けていくかということに重点をおき、授業の流れや指導の仕方、学習内容の明確化等、授業改善を行うこととしました。その手立ての1つが、「濃縮授業」です。「濃縮授業」とは、学習内容を精選し、能率的に行う授業。算数科を中心にすすめました。

2 ポイント

- 学校の授業で、児童が「わかる」「できる」を実感できること。
- 学ぶことは楽しい、もっとできるかな！と児童が学び続けること。
- 児童の学力をつけること。

問題が解けた！



3 手順

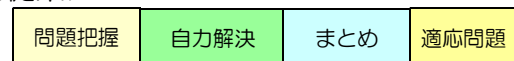
①指導計画の見直し修正⇒指導時間が従来の半分程度に！

- ・学習内容（最低限を押さえる内容）を精選する。
- ・「教科書を教える」から「教科書で教える」へ。⇒どこを省くか吟味する。
- まず、「知識・技能」を中心とした授業を計画する。

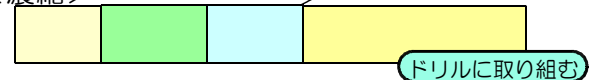
②新しい授業スタイルをシステム化（1時間授業）

- ・本時の学習内容を明確にする。
- ・学習内容を押さえたプリントを用意する。
- ・児童が練習問題を行うが必須。⇒そのつど評価する。
- ・学年時間割を作成する。
- ・1時間共通のゴールと、児童それぞれ個別のゴールを教員が把握する。

<従来>

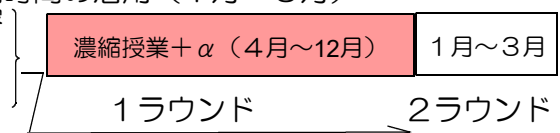


<濃縮>



③ラウンド制の導入・・・濃縮授業をした結果の余剰時間の活用（1月～3月）

- ・習得率が低かった単元や重点を置きたい学習内容
- ・「思考力・判断力・表現力」に特化した授業
- ・県学力状況調査、全国学力テストの問題



4 さまざまな取組

◎火曜日の朝時間

- ・全校朝会での校長講話を2段落で書く活動の継続。
- ・算数「おぼえているかな？」問題を解く。

◎短い時間で楽しく学ぶ。

算数オリンピック。タイピングコンテスト。新聞から考えたことをまとめる（NIE）。長期休みの課題をポイント制にする。⇒プレゼン大会を開催し賞状を授与する。

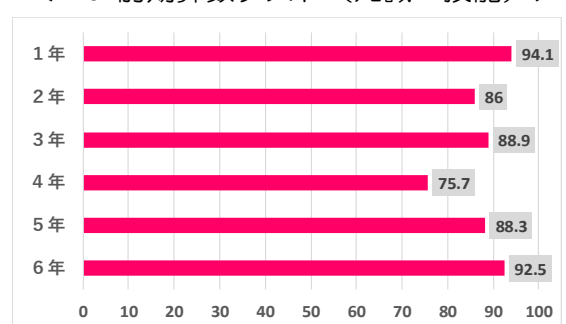
5 プログラミング的思考

- ◎プログラミングソフトやツールフロチャートを使って、児童が論理的に考えていく力を付ける。
- ・プログラミングの学習は、「トライ&エラー」。小さな失敗をしてしまうことはあるが、すぐに修正し、違う方法で取り組んでいく。

<成果>

- 練習問題、プログラミングの学習を通し、児童は、間違いや失敗を恐れず、どんどん「トライ」していきこうという意欲が高まっている。
- 失敗を生かす！失敗を修正する！即、問題解決！
- 教員の指導力が向上した。～経験年数のちがう教員集団だが、だれでもいつも同じように指導できるようになっている。
- 個別指導の充実が図れた。～一人一人の課題に合わせ、どの子も自分のめあてがある。子供たちは、やる事が明確で一生涯懸命に取り組む。

< R5 前期算数テスト（知識・技能） >



A：濃縮授業・プログラミング的思考 「本時の授業」

今日の2年4組 算数は？ 小関 遼先生が授業をします。

「とにかくオーセンティックに！」 単元名「長いものの長さのたんい」

場所 2年4組教室で行いますが、子供たちが、校内をまわります。

児童が前時に作成した、「3mものさし」を使って、学校内にあるものの長さをはかる活動が中心の授業。

- <4人グループでの測定活動>⇒予想される場所
- 廊下の壁（前扉から後ろ扉）
 - 職員室玄関前の壁
 - 体育館にあるマット
 - 中庭の滑り台（1号棟と2号棟の間）



<授業のポイント>

ものの長さをはかる前に、『見当をつける』

【例】1mは両手を広げた長さ。両手を広げた長さが2つ分と手のひら2つ分。だから、2m20cmくらいかな。

子供たちに量感が身に付いていくような1時間にしたいと思います。

今日の5年3組 算数は？ 下田 楓先生、出浦 芳枝先生が授業をします。

「むずかしいけどチャレンジ！」 単元名「割合」 場所 5年3組教室

児童が「飲み物は全部で280mlです。このうち果汁が20%ふくまれています。飲み物に入っている果汁は何mlですか」という割合の問題にチャレンジする授業。

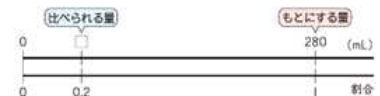
- <果汁20%のイメージをつかむ>⇒比べられる量の求め方を言葉の式でまとめる。
【比べられる量=もとにする量×割合】



全体の量 280ml
もとにする量 1



果汁の量 20ml
割合 0.2



<授業のポイント>

練習問題（ワークシート、タブレット）を子供たちががどんどん解いていきます。やりながら定着させたいと思います。

今日の6年1組 理科は？ 秋元 孝文先生が授業をします。

「何度でもトライ！」 場所 6年1組教室

単元名「電気の利用～ためた電気を上手に使おう～」

児童が「暗くなったら自動でつく電気」のプログラミングを自分たちで考え作り出す授業です。



<授業のポイント>

パソコンとプログラミングセットを使ってトライアンドエラー！！出来なくても「どこが違うのか」を考えて、試して成功させよう！！

